

鹿角ゼロカーボンラジオ Nice Action! セカンド 第22回(3月19日(木)放送分)の概要

今回は、中東における国際情勢の影響によりガソリン代が急騰したことなどを受けて、特別回として、「石油価格上昇という状況が電気代に与える影響」についてお話してみたいと思います。

みなさまも「3月12日からガソリンが急激に上がったが、かつのパワーだけでなく、他の電力会社も含めて、同じようなことが起こる可能性はあるのか。」という点、知りたいのではないかと考えています。

ということで、まずこの点を話しますね。なお今回は、ご家庭などで使われる低圧という種類の電気について説明します。

まず電気代には基本料金と電力量料金というものがあって、電気の使用量によらず一定である基本料金は燃料高騰の影響は受けません。

次に使用量に応じて支払う電力量料金ですが、こちらには仕入れる燃料の価格に応じて上下する「調整費」というものが入っているケースが多いですが、この部分は、燃料の高騰によって変化します。

例えば、東北電力さんと燃料費等調整額、かつのパワーだと仕入調整額というものですね。

以前もこの調整費のことを、請求書を見ながら教えていただきましたね。ということはこの部分の値段がいずれ上がってくるということですね。

そうなのです。

次に、石油などの燃料の高騰が続いたとして、それが実際の電力料金にいつ反映されるかという点を説明します。

まず大手電力さんの場合、5か月前から3か月前に仕入れた燃料代を請求額に反映させるというタイプのものが使われています。つまり、3月に高値で燃料を購入したとしても、それが反映されるのは6月からで、しかもその影響は6月なら1/3とになります。かなり後に高騰が効いてくるといえますね。

一方、かつのパワーの場合は、3月に仕入れた費用を4月に反映させるので、相対的に早く影響が出るといえます。ただ、仕入れ値が上がった時に、利益を出して相殺するという「先物」というものもかなり使っているので、例えば4月の請求については、今回の石油価格高騰の影響はあまり出ないかと考えています。

他の会社の調整の方法は、さまざまですが、前者のやり方に近いところもかづのパワーのやり方に近いところも、それぞれ多いかと思えます。

そして、どのくらい影響があるかですが、これは世界情勢次第といえ、何ともいえないところです。ただ、一般的に言えるのは、燃料の部分が5割増になったとしても、燃料の部分が請求する電気の料金全体に占める割合は3割から5割程度といったものなので、電気料金全体の上げ幅は2割から3割に抑えられるという感じになりますね。さらに電源には水力、太陽光とか原子力とかもあるので、石油やガスが何割かあがってもそれがそのまま電気の仕入れ代金の上昇の割合にはならないということも大事ですね。

あと、電気がガソリンと違うのが、使用量によってその月に払う金額が変わってくるところです。ガソリンの場合は、1回あたりに給油する量は毎回大体同じなので、単価があがるとすぐに上がったことがわかりますが、電気の場合、前月より使用量の少ない月だと、単価が上がっても支払金額は前の月から上がっていないということもあり、この点も留意が必要です。

特に4月、5月は冬の時期より使用量が少なくなる傾向があるので、みなさまの負担感という意味では、今年の春、意外と大きくないと感じるかもしれないです。

そうですね。蓄熱の電源を切ったり、エアコンの設定温度を下げたいする時期ですしね。とはいえ、節電は心がけていきたいですね。

確かにそうですね。家計にためにももちろんですが、日本が輸入した貴重なエネルギーを大切に使うためといった意味でも節電は大切ですね。

最後に、もう一点、説明したい点があります。「かづのパワーの電気は、日本の地熱や水力などの電気を仕入れて、それを売っているので、石油価格が高騰してもかづのパワーの電気代の単価には関係ないのではないか」と思われる方もいらっしゃるかと思います。

ただ、実際は、「かづのパワーの電気代の単価も石油価格が上がれば大なり小なり影響を受け上がったたり下がったりすることがある」ということとなります。

これはなぜかという、かづのパワーは秋田県の地熱、水力、風力、太陽光発電の電気を多く仕入れて売っているのですが、その買い取りの単価については、電気の市

場の価格に連動しているものの割合が多くなっています。これは、契約するときそのように決まっていると考えていただければよいかと思います。

電気の市場の価格は、世界の石油価格につれて上がったか下がったかする傾向もあるので、つまりかづのパワーの電気代の単価も、どうしても世界情勢の影響を受けてしまうのです。

とはいえ、繰り返しになりますが、市場の価格が上がり、仕入れる費用が多くなるときには逆に収入が増えるような「電力先物」というものを一定の割合で買っているのので、世界情勢の負の影響を抑えるようにはしています。

どの電力会社も世界情勢の影響は避けられないんですね。